

# 職務経歴書

2017年11月1日

氏名：〇〇 〇〇

職務経歴概要には、これまで担当してきた仕事について要点を絞って書きます。採用担当者は職務経歴書を上から順に読んでいくため、最もアピールしたいポイントはここで挙げておくと興味を引くことができます。

## 1) 職務経歴概要

株式会社〇〇〇〇制作部にて、会社案内をはじめとする各種冊子・パンフレットの制作を担当。入社3年目よりチームリーダーを務め、業務フローの標準化とチーム内のコミュニケーション活性化を図った。

制作部内の1チームとして担ってきた生産管理業務は平成〇年より生産管理課となった。これまでの実績を評価され、現在は生産管理課にて課長代理を務めている。

## 2) 職務経歴

平成〇年〇月 株式会社〇〇〇〇 入社（制作部 配属）

事業内容：印刷・DTP デザイン・デジタルコンテンツ制作

従業員数：48名

平成〇年〇月 制作部 組版課 チームリーダー

平成〇年〇月 制作部 組版課 主任

平成〇年〇月 制作部 生産管理課 課長代理

初めて読む人にとって分かりやすい表現になっていることが重要です。社内で使われている独特の用語、特に異業種に応募する場合は業界特有の用語が使われていないかチェックしましょう。思いっくままに書くのではなく、アピールしやすいものから優先順位をつけて挙げていくようにしましょう。

担当業務	経験・実績
制作ディレクション	<ul style="list-style-type: none"><li>クライアントとの折衝、制作費策定</li><li>外部委託先への制作指示、ディレクション</li><li>制作スケジュールの策定、進行管理</li><li>既存の印刷物をデジタルコンテンツ化する提案</li></ul>
生産管理業務	<ul style="list-style-type: none"><li>印刷工程表、作業指示書の作成</li><li>オフセット印刷用紙発注、在庫管理</li><li>納品事故への対応と原因調査、クレーム処理</li><li>制作費管理</li></ul>
チームリーダー 課長代理	<ul style="list-style-type: none"><li>従来は委託先やオペレーター任せだった業務フローの標準化</li><li>情報共有のルール化、会議をアウトプット重視型へ転換</li><li>問題点や改善案について発言しやすいチームの雰囲気作り</li><li>メンバー間のコミュニケーションに問題がないか定期的確認</li></ul>

### ・業務フローの標準化の試みと成果

入社当時は各担当、各委託先任せだった仕事の進め方を標準化することで効率化を図るとともに、作業上のミスを大幅に減らすことに成功した。また、業務フローが可視化されたことで進捗状況が分かりやすくなり作業遅延が起こりづらくなるとともに、メンバーが体調不良で欠勤する場合などに備えるためのリスクヘッジにもなった。

経験・実績のうち、特にアピールしたいものについて詳述しましょう。面接の柱となる重要なところです。エピソードをまじえるなどして、読んだ人が具体的にイメージできるように書くのがポイントです。

### ・チームリーダー、管理職として心がけていること

メンバー同士が話しやすい雰囲気作りのために、互いの顔が見えるデスクの配置にし、業務上の情報共有は「いつ」「どのように」行うかをルール化した。また、会議の場で報告するのではなく、前もって報告を済ませておき、会議中は総括や今後の目標設定、意見交換といったアウトプットに徹することができるようにした。こうした試みの結果、年齢や社歴に関係なくメンバーが発言するようになり、積極的な意見や提案を出し合えるようになった。

## 3) 保有資格

平成〇年〇月 DTP エキスパート 合格  
平成〇年〇月 クロスメディアエキスパート 合格  
平成〇年〇月 校正技能検定試験上級 合格  
平成〇年〇月 普通自動車第一種運転免許 取得

経験業務と関わりのある資格を持っている場合、有力なアピールの材料となります。略称ではなく、必ず正式名称で書くようにしましょう。

## 4) 貴社で取り組みたいこと

### ① マネジメント経験を活かした新規事業への貢献

デジタルコンテンツ制作のための新規事業のスターティングメンバー募集を拝見し、これまでチームリーダー、課長代理として取り組んできたマネジメントの経験をぜひ活かしたいと感じた。チームから部署へと組織が大きくなっていく中で、問題となりやすい点、マネージャーが注意しておくべき点はフェーズごとに変化することを学んだ。全く新しい部署の立ち上げに携わることで、これまで学んできたことを活かすとともに、マネジメントスキルを伸ばしていきたい。

### ② 印刷物とデジタルコンテンツの融合

制作ディレクションを担当する中で、既存の印刷物をデジタルコンテンツ化することでク

クライアントが抱えるコスト、在庫リスク等の問題点を解決に近づけられたケースが複数あった。ただし、元が紙媒体のものをアプリ化・Web サイト化するために、原形である紙媒体の体裁をいかに維持するかという点に注意が向いているように感じる。

今後はスマートフォンへのシフトが急速に進むと思われることから、紙の印刷物とデジタルコンテンツが互いの利点を活かして補完し合う、本当の意味でのクロスメディアが求められるようになると思う。印刷物とデジタルコンテンツ制作の両方に関わってきたからこそ実現できる、双方を融合させたコンテンツの開発に取り組みたい。

### ③ 生産管理業務の経験を活かしたコスト管理

生産管理業務を担当したことで、仕事全体の工程を俯瞰し、制作コストやスケジュール感を常に意識しながら仕事を進めるようになった。この経験を活かし、ゼロの状態から創り上げる新規事業においても合理的なコスト管理方法を考案し、提案していきたい。

自己 PR は重要な要素ですが、見出しが「自己 PR」である必要はありません。応募先企業ではどのような人物を求めており、何を期待されているのかを分析した上で、自分ができると、今後やってみたいことを伝えましょう。採用担当者は「この人を採用した場合に得られるメリット」を考えた上で可否を決めます。あなたを採用することで企業側が得られるメリットを意識して書きましょう。

以上